

## 平成 23 年度 府立枚岡樟風高等学校 経営計画

## 1 めざす学校像

本校は、負のスパイラルを断ち切り新生枚岡樟風高校として再起動するため、平成 21 年度から次に示す大改革を断行した。

- ①総合学科システムを有効活用できる生徒層を獲得するための 32 単位・45 分授業の導入
- ②「出口」（進路実現）を見すえた総合学科（カリキュラム）改革
- ③教務内規の見直しと留年・中退・未履修問題への対応
- ④問題行動を「見逃さない」「やりきる」生徒指導
- ⑤カリキュラムと連動した系統的キャリア教育の確立
- ⑥広報活動の強化と地域資源の積極的な活用

我々はこの改革を継承し、さらに高い次元の教育を目指し、以下のような「生徒像」、「学校像」を追求していく。

□ めざす学校像 「健全な市民を育成し、中河内を活性化する有為な人材を輩出する中堅校として、地域から厚く信頼される学校」をスローガンに以下の 6 点を目指す。

- ①「18 歳での進路実現！をめざす」総合学科
- ②「中堅大学進学を担える」総合学科
- ③「Smart な樟風生を育成する」総合学科
- ④「基礎・応用・実践力を養う」総合学科
- ⑤「繋がる・繋げる人間関係形成能力を育成する」総合学科
- ⑥「社会貢献をめざす」総合学科

□ 育てたい生徒 ①社会的責任を自覚できる規範意識 ②繋がる・繋げる人間関係形成力

③困難を突破する基礎・応用・実践力 ④社会貢献を目指す使命感、以上 4 点を確実に身につけた生徒

## 2 中期的目標

今後の 3 年間で、学校改革の成果を土台に「教育の質保証」を生み出す期間として捉え、以下の 6 点を学校の中期的目標とする。

（1）「18 歳での進路実現！」を目指す総合学科

- ①中退率の減少…平成 21 年度からの 2 年間で中退率が約半減した。今後 3 年間で中退率 3% 以下を目標とする。
- ②進路未決定者の減少…現状は、進路未決定者が 26%（浪人生を除く）と府平均の 10% を大幅に上回っている。これを 3 年後には 5% 以下となることを目標とする。
- ③就職決定者の増加…就職内定率 88.5%（平成 22 年度）を 3 年後に 95.0% 以上に上昇させる。とくに就職試験一次合格率を 75% 以上とする。

（2）「中堅大学進学を担える」総合学科

2 年後には新しい系列での卒業生、3 年後には 32 単位でのカリキュラムで学習した卒業生が輩出されることを受け、複数名の中堅私立大学合格者をめざす。

（3）「Smart な樟風生を育成する」総合学科

Smart（利口な、きちんとした、活発な）樟風生を育てる。重点的に改善すべき点としては、①授業規律②欠席・遅刻の減少③服装・頭髪指導④あいさつの 4 点である。とくに遅刻については、現状の 1/3 以下をめざす。

（4）「基礎・応用・実践力を養う」総合学科

- ①力のつく学習指導の展開…「授業が自分のためになっている」と肯定感を持っている生徒が 1/4 以下という状況を踏まえ、到達目標の設定・授業内容・授業形式の工夫・教材の工夫等により 3 年後には 60% 以上の肯定感をめざす。
- ②6 系列での基礎・応用・実践力を養う…6 つの系列の個性化を促進し、互いの系列のコラボレーションを推し進める。系列での地域貢献を推し進め、「系列の多様性と専門性の高さ」という枚岡樟風のアイデンティティを確立する。

（5）「繋がる・繋げる人間関係形成能力を育成する」総合学科

- ①クラスで生徒を鍛える…「学級での生活が自分のためになっている」と肯定感を持っている生徒が 1/3 強でしかない。クラス活動の活性化を行い、肯定感 70% 以上をめざす。
- ②生徒会・クラブ活動で生徒を鍛える…現在のクラブ活動の加入率は 30% 強、これを 50% 以上にする。また、「生徒会活動は活発である」の肯定感（現状 20% 弱）を 50% 以上に引き上げる。

（6）「社会貢献をめざす」総合学科

- ①系列と地域のコラボレーション…6 つの系列はそれぞれ特徴があり、幼・保・小・中だけでなく、東大阪市子育て支援センター・公民館・瓢箪山商店街・ロータリークラブ・農協等とのコラボレーションを促進し、地域貢献を推し進める
- ②生徒会・クラブ活動での地域貢献…平成 21 年度から生徒会・クラブが中心になって地域清掃に取り組んでいる。東日本ダイナミック震災の義援金活動も展開したが、「地域貢献の活動」の肯定感は 1/5 程度しかない。これを 50% 以上を目標に取り組む。

### 3 本年度の重点目標と取組み

	目標	取組計画	評価指標
取組み①	<p>(1)「Smart な樟風生」の育成</p> <p>①9期生 80%以上の卒業（入学時比較）</p> <p>②10期生 5%以下の4年次決定率</p> <p>③11期生 90%以上の2年次進級</p> <p>④遅刻回数 25%減</p>	<p>①現在 35 名以上のクラスを編成せず、きめ細かい指導が可能な学習環境を整備している。この取組を継続実施する。</p> <p>②イエローカード制度・リフレッシュ指導を中心に「問題行動を見逃さない」生徒指導を強化することで、落ち着いた学校生活・学習環境を整備する。</p> <p>③遅刻・欠席多寡の生徒に対する指導を強化する。具体的には、遅刻者については早朝登校等の指導を実施。また、欠席多寡の生徒には、教育相談委員会の活動を強化し、家庭状況も視野にいれた支援を行う。</p> <p>④地元東大阪市・八尾市を中心に中高連携を強化し、日常的なきめ細かい情報交換を行い、ドロップアウトの危険性の高い生徒への支援を強化する。</p>	<p>①卒業率・進級率の数値</p> <p>②遅刻回数</p>
取組み②	<p>(2)18歳での進路実現</p> <p>①進路未決定者 15%以下</p> <p>②就職内定率 90%以上</p> <p>③就職試験 1 次合格率 75%以上</p> <p>④中堅私立大学複数名合格</p>	<p>①実践的キャリア教育支援事業決定による系列を中心にした系統的キャリア教育の実践。具体的には、外部機関と連携したインターンシップ・講師招聘・外部機関での学習・資格取得など</p> <p>②就職支援コーディネーター・就職支援員・ソーシャルワーカーを活用した就職指導への支援</p> <p>③学年と進路指導が密に連携した進路指導。具体的には、最後まで指導しきる面接指導、応募前職場見学の義務化、ミスマッチ解消の企業人材情報の入手</p> <p>④大学及び大学生（立命館大学・近畿大学）の活用</p> <p>⑤32単位×45分×7時限での授業、国・数・英の時間数増</p> <p>⑥7時間目の講習等の積極的活用</p>	<p>①進路未決定者率</p> <p>②就職内定率</p> <p>③就職 1 次試験合格率</p> <p>④中堅私立大学合格実績</p>
取組み③	<p>(3)「基礎・応用・実践力を養う」</p> <p>①授業評価の上昇（5段階で 2.5 ポイント以上）</p> <p>②学校評価自己診断の授業に関する項目の上昇</p>	<p>①授業中の私語が特定の生徒に集中している。イエローカードの効果的利用及び教員間の統一した認識により、授業中の私語を減らし、集中した学習環境を整える。</p> <p>②各教科で、授業内容の工夫を行い、生徒の学習意欲の喚起を行う。具体的には、⑦「写す・出す」の学習から学習内容を理解させる授業の充実⑧各教科必ず年 2 回の研究授業（新任教員を除く）を行う。⑨家庭学習を充実しなければ、授業理解が困難な学習目標の設定などを行う。</p> <p>③取組②のキャリア教育の実践と連動させて、「学ぶこと」が将来の進路実現に結びつく事を理解させる。</p>	<p>①授業評価のポイント</p> <p>②学校評価自己診断の授業評価</p>
取組み④	<p>(4)「繋がる・繋げる人間関係形成能力を育成する」</p> <p>①クラブ加入率 50%以上。特に女子クラブ加入率を 40%以上にする。</p> <p>②生徒会執行部の強化</p> <p>③共生教育の充実・発展</p>	<p>①4 月のクラブ体験の充実及び 2 年次への再度のクラブ勧誘を実施することで、クラブ加入率の向上及び定着を図る。</p> <p>②放課後の会議の精選を行い顧問の指導時間の確保を行う。</p> <p>③学校説明会でのクラブ紹介・運動系クラブ対抗駅伝等を実施し、クラブ員にクラブ活性の自覚を促す。</p> <p>④体育祭・10 周年記念行事・文化祭・学校説明会などを生徒会執行部で担うことで生徒の自主性を育てる</p> <p>⑤校外学習・体育祭・修学旅行・文化祭等の行事を通じての障がいがある仲間を中心にしたクラス活動の実践。</p>	<p>①クラブ加入率の向上</p> <p>②生徒会執行部による運営機会の拡大。</p> <p>③学校評価自己診断での共生教育に関わる項目のポイント</p>
取組み⑤	<p>(5)「社会貢献をめざす」</p> <p>①系列と地域諸団体のコラボレーションの推進</p> <p>②生徒会・クラブ活動における地域貢献</p>	<p>①系列による地域連携</p> <p>⑦福祉・保育系列→旭子育て支援センター・保育所・幼稚園・東大阪大学・大阪樟蔭大学等・ヘルパー養成所</p> <p>⑧農と自然系列→農協・近畿大学農学部・農業大学校・地域の若手営農家</p> <p>⑨基礎教養系列→大阪商業大学・瓢箪山まちづくり協議会・みどりロータリークラブ</p> <p>②平成 21 年度からの地域清掃の定着、地域の行事を校内施設で活用する時のバックグラウンドスタッフとしての連携の推進</p>	<p>学校評価自己診断の地域貢献指標</p>